



栃木県議会議長 関谷暢之 様 栃木県知事 福田富一 様

栃木県知事 福田富一様、栃木県議会議長 関谷暢之様、宇都宮市長代理 青山由典様、栃木県保健福祉部こども政策課長 野中延寿様、栃木県教育委員会教育長代理 高野和泰様、栃木県幼児教育センター長 前原由紀様、栃木県幼稚園連

『創りだそう！こどもの未来を拓く、良質な乳幼児期の教育を』
『届けよう！こどもとともに生きるよろこびを』

第73回 栃木県幼稚園教育研究大会
期日 令和八年八月五日(水)～七日(金)
会場 (全体会)栃木県総合文化センター (分科会)ライトキョウフ宇都宮
参加 九百八十名
大会テーマ

時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一 氏

第 165 号

令和8年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／齋藤 君世 ●発行人／船田 弘和

■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



表彰

【幼稚園教育振興功労】

認定こども園くにや幼稚園 理事長 栗原 賢明 先生

認定あけぼのこども園 理事長・園長 齋藤 達成 先生

【幼稚園教育研究功労】

幼保連携型認定こども園旭幼稚園 理事長・園長 井上 智賀 先生

認定こども園やすづか幼稚園 副園長 大久保 智子 先生

【永年勤続表彰者】

五十年表彰者 一名

四十年表彰者 六名

三十年表彰者 十八名

二十年表彰者 四十六名

十年表彰者 百三十一名



合会顧問 石嶋勇 先生のご臨席を賜り、盛大に開催された。

永年勤続表彰者の代表は、認定すずめこども園 石嶋勇 先生が務めた。

講演会

テーマ

「遊びの充実を生み出す今後の幼児教育の在り方を考える」

講師

京都教育大学教授 古賀松香氏

今年度末に次期学習指導要領が告示される予定であり、幼稚園について一年間の周知期間を経て、令和十年度から全面实施される見込みである。次期指導要領においては、三つの基本的な考え方を基に、多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものに、という大きな方針が示されている。こうした方針を実現していく上で、「好き」を育み、「得意」を伸ばすことと、自分の意見を形成し対話と合意ができることの重要性が次期学習指導要領で強調されているようである。先生は特に、「好き」を育み、「得意」を伸ばすための方法として子どもたちの遊びに着目され、「遊びの深まり」を生み出す幼児教育の在り方について、具体的な事例も取り上げながら、お考えを披露された。



「遊びの深まり」を実現するために先生が重視されているのは、子どもたちの探求心を育む三つの環境構成である。すなわち、「保育者が提示する環境」、「探し求める環境」、「園外とつながる環境」の三層である。これらの構成に徹底しているのは、大人が応じ過ぎてしまつたのではなく、活動の具を子どもに委ねることであると理解した。子どもたちに「遊びの深まり」を促すプロセスを保育者の立場から考えたときに、先生は見取る力をつけることを重視されており、そのための具体的な方法として先生が提示されていた内容が大変参考になった。

公演会

テーマ

「ケロポンズのみんなで一緒にあそぼうよん」

講師

ケロポンズ(増田裕子氏・平田明子氏)

公演会では、ケロポンズのお二人を講師に迎え、歌やリズム遊びをはじめ、子どもたちが思わず笑顔になり、体を動かしたくなるような遊びが次々と紹介された。参加者も実際に体を動かしながら体験する参加型の公演であった。会場は終始笑顔と笑い声に包まれ、遊びを通して人と人とのつながる楽しさや、保育における遊びの魅力を改めて実感できる時間となった。公演の中で、保育現場ですぐに取り入れられる実践が数多く紹介される一方で、「園に持ち帰って、この通りにやる必要はなく、子どもたちと保育で楽しい日々を過ごしてほしい」とのメッセージが伝えられた。紹介された遊びをそのまま再現することを目的とするのではなく、それぞれの園や学級の実態、子どもたち一人ひとりの姿や興味・関心に応じて工夫し、保育者自身も子どもたちとともに楽しみなながら保育を創り上げていくことの重要性が示された。

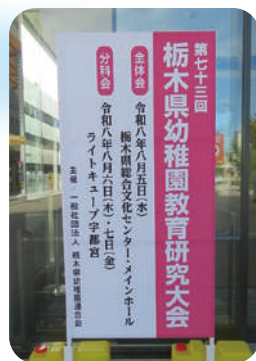


本公演は、遊びには子どもと保育者、さらに友だち同士の心をつなぎ、豊かなコミュニケーションを育む力があることを改めて伝える内容であった。参加者にとって、日々の保育を見つめ直すとともに、子どもたちと笑顔あふれる毎日を築くための多くの示唆を得る有意義な公演会となった。



第73回栃木県幼稚園教育研究大会 分科会

ライトキューブ宇都宮にて、二日間に渡る分科会が開催された。コーディネーターや助言者、話題提起者のきめ細やかな準備と、参加者の日頃の思いが交わり、明日の保育につながる気づきと学びに出会う機会となった。



“愛されていると感じる保育” 「明日から何を大切にするか」を考える

助言者 松山 寛(帝京科学大学・講師)
コーディネーター 大塚 久子(認定こども園東光寺幼稚園・園長)



1
分科会

子どものころを育む食育活動のあり方 ～五感を刺激する体験とは～

助言者 高橋 美保(白鷗大学・名誉教授)
コーディネーター 守屋 和美(認定こども園仁神堂幼稚園・主幹教諭)



2
分科会

心の整え方を考える ～「先生なんかやってられない」と思う前に～

助言者 床井ちとせ(有限会社シンビプロジェクト・取締役副社長)
(印象戦略家)
コーディネーター 篠原真木子(認定こども園茂木愛泉幼稚園・園長)



3
分科会

絵本を通して子どもの豊かな心を育む

助言者 浅木 尚実(白鷗大学・名誉教授)
コーディネーター 大久保智子(認定こども園やすづか幼稚園・副園長)



4
分科会

分科会	話題提起者	日程	参加人数
1	前田 優 (認定こども園友愛幼稚園・主幹保育教諭) 村上 一葉 (幼保連携型認定こども園花園幼稚園・保育教諭)	8/7	60
2	加藤 弓絵 (認定こども園鹿沼ひかり幼稚園・保育教諭) 下妻 凜 (認定こども園晃望台幼稚園・保育教諭) 齋藤 愛留 (認定こども園晃望台幼稚園・保育教諭)	8/6	55
3	細井 恵子 (認定こども園真岡ひかり幼稚園・学年主任) 上野 麻衣 (真岡さくら幼稚園・主幹教諭)	8/7	73
4	茂呂 亜美 (認定こども園若葉幼稚園・保育教諭) 小松原 真寛 (認定こども園岩舟幼稚園・保育教諭)	8/6	95
5	釧持 佳世 (認定こども園黒磯幼稚園・幼児主任) 見形 歩香 (野崎幼稚園認定こども園・保育教諭)	8/6	78
6	小森 恵梨奈 (認定こども園市貝たいよう幼稚園・保育教諭) 青山 由紀恵 (認定こども園高ノ台幼稚園・保育教諭)	8/6	56
7	矢野 麻由 (上河内幼稚園・主任教諭) 関 佳代 (認定こども園中鶴田幼稚園・主任教諭)	8/7	73
8	吉光寺 睦美 (洗心幼稚園認定こども園・保育教諭) 長 実里 (認定こども園舌竜幼稚園・主幹保育教諭)	8/6	105
9	真田 さより (さくら認定こども園・副主幹保育教諭) 秋山 覚 (風と緑の認定こども園・学年主任)	8/7	58
10	東 敦子 (認定こども園せいほう幼稚園・主任教諭) 野原 祥 (法得幼稚園・教諭)	8/6	38
11	佐藤 由利子 (認定こども園たかねざわ幼稚園・主幹保育教諭) 武田 剛 (やいたこども園・主幹保育教諭)	8/7	59
12		8/6	46
13		8/7	28
14	船田 恵弘 (認定こども園おおみや教育センター・主事) 酒井 龍宏 (認定こども園吹上幼稚園・副園長)	8/7	44

子育ての園の役割と在り方を考えよう

10
分科会

助言者 丸橋 亮子(恵泉女学園大学・准教授)

コーディネーター 宇津木しのぶ(認定こども園野木幼稚園・主幹保育教諭)



子どもの主体的な遊びと保育者の関わり

5
分科会

助言者 神長美津子(大阪総合保育大学・特任教授)

コーディネーター 栗田 英子(認定こども園黒羽幼稚園・園長)



保護者とつながる子育て支援 ～園と保護者の関係づくりを考えよう～

11
分科会

助言者 若盛 清美(幼保連携型認定こども園こどものもり・副園長)

コーディネーター 青柳 貴也(認定こども園見望台幼稚園・園長)



子どもの「協同性」を育む保育者のかかわり方

6
分科会

助言者 市川 舞(宇都宮共和大学・教授)

コーディネーター 佐々木桐子(萌丘幼稚園認定こども園・園長)



自分たちで作る、保育が楽しい職場環境

12
分科会

助言者 矢藤誠慈郎(株式会社保育のデザイン研究所・主席研究員)

コーディネーター 大嶋 裕(認定こども園今市中央幼稚園・理事長)



子どもの多様性を尊重する保育の工夫

7
分科会

助言者 藤川志つ子(敬愛短期大学・准教授)

コーディネーター 石戸奈緒美(みふみ認定こども園・副園長)



保育の面白さや奥深さを再発見しよう！ ～私の忘れられない保育エピソード＆ストーリー～

13
分科会

助言者 田淵 光与(宇都宮共和大学・教授)

コーディネーター 山崎 英明(認定こども園釜井台幼稚園・園長)



心のスキンシップ ～自分が大好きになる手遊び・歌遊び～

8
分科会

助言者 中澤 淑江(表現遊び研究家)

コーディネーター 大島絵理子(認定こども園渡瀬保育園・園長)



AI社会の中で、これからの時代に必要な経験とは ～遊びが育む創造性と未来を切り開く力～

14
分科会

助言者 高橋 健介(東洋大学・准教授)

コーディネーター 中臣 拓(めぐみ幼稚園・副園長)



「自発的な活動としての遊び」を通した 学びを見つめ直す

9
分科会

助言者 河合 優子(國學院大学・教授)

コーディネーター 高根沢伸友(宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園・副園長)





就職応援フェア

期日 令和八年七月五日(日)
会場 ライトキューブ宇都宮

例年開催していた栃幼連主催の『合同就職説明会』は、今年度『就職応援フェア』と名称を替えて実施した。年々参加者が減少していた事実を受け止め、「少しでも新しい風を」との思いから、サブタイトルに「就職・転職・再就職」と加え、より多くの就職希望者が参加してくれるよう、名称だけでなく内容にも変化を加えた。卒業学年以外の学生も参加可能とした。これは、より早い時期から多くの園を知ってもらうことが目的で、次年度以降の就職活動、園選びにプラスになるのではないだろうか」と、県内の養成校と共有し、当日を迎えた。



しかしながら、最終的な参加者数は昨年を下回り、過去最少の規模となったが、二十分間に説明会が始まると、参加者それぞれが興味がある園のブースを訪問し、熱心に質問する姿や、

「何度も顔をしながら園の説明に耳を傾ける姿が見られた。」



園の情報を得ようと思えば、スマホから。園の雰囲気を知ろうと思ってもスマホから。各園の初任給さえもスマホが教えてくれる時代です。そんな時代だからこそ、対面で感じた印象などを基に園見学なども重ねながらしっかりとした園選びをしてもらいたい。その上で、永く幼児教育・保育にたずさわる先生が今回の就職応援フェアをきっかけにひとりでも多く誕生してくれることを切に願います。

結びに、本会の開催にあたりさまざまな改善点をご提案いただいた前年度の総務委員、そしてそれらを引き継ぎ、形にしてください。た現総務委員、数えきれないほどの準備に奔走してくださった事務局、当日の会場設営にご協力いただいた加盟園の先生方、すべての関係者のみなさまにあらためて感謝申し上げます。ありがとうございます。

今日も園庭を元気に走り回る子どもたち。この子たちの明るい未来に向け、就職希望者と加盟園との素敵な出会いが毎年生まれますように。

総務委員長 細島洋明

研修会だより

第一回「設置者・園長研修会」

期日 令和八年六月二十六日(金)

会場 ベルヴィ宇都宮(ヴァーグデリス)八十三名

内容 「二〇二六年度『こども性暴力防止法』『カスハラ対策義務化』に向けた事前準備」

「園長先生必見! 園経営に関わるトピック情報(公定価格の見直し等)」

講師 (株)福祉総研 KYOSTA コンサルチーム

社会保険労務士法人人材総研 園のコンサルタント 安岡知子氏

教育・保育などの子どもに接する場での、子どもへの性暴力を防ぎ、子どもの心と身体を守るため、「こども性暴力防止法」が二〇二六年十二月二十五日に施行される。対象事業者がやるべきことは、
・従事者の性犯罪前科の確認
・性暴力を防ぐための取組の実施
があり、制度開始前から準備しておく必要がある。



カスハラ対策の義務化は二〇二六年十月一日に施行される。クレームとカスハラの違いを把握し、法人として「カスハラは許さない」という基本方針を作成・周知していく必要がある。

園経営に関わるトピック情報として

は、「codeサーチ」にて経営情報等の報告を行っていない場合、令和八年七月から基本文単価に5%を乗じた額の減産が適用されることになる。報告が行われる月まで減算されるため注意が必要である。

第三十九回全日私幼連関東地区教員研修 埼玉大会

期日 令和八年七月三十日(木)

会場 大宮ソニックスシティ大ホール他

参加 千七百六十一名 (うち栃木県七十二名)

大会テーマ

「咲いたまなび 咲いたまごころ」子どもの主体性を育む保育環境づくり」

埼玉県各県から参加者が集い、全長より、日々の保育を担う先生たちの思いと、リフレッシュしてほしいという願いが伝えられ、華やかな演出と歓声に包まれた一日目となった。



特別対談では、「今」というテーマで、元オリンピック金メダリストの北島康介氏と松尾会長によるトークセッションが行われた。特別公演には、「伝わるコトバ 響くコトバ」をテーマに、三遊亭楽生師匠による落語が披露された。

二日目、栃木県が担当したフォーラムは、「絵本を通して子どもの豊かな心を育む」をテーマに、白鷗大学名誉教授の浅木尚実氏を外部ゲストに迎





環境を通して行う教育・保育では、「主体性」が何よりも大切であり、子どもたちが「夢中になっていく」「学びを深めていく」という環境をつくっていくことが重要である。そのために、「子どもの主体性」と「保育者の意図」をバランスよく絡めていくことが必要だ。

え、認定こども園やすづか幼稚園副園長の大久保智子先生がコーディネーターを務めた。

第一回「保育セオリー講座」

期日 令和八年六月四日（木）

会場 コンセーレ（大ホール）

参加 百十二名

内容 「環境を通して考える教育・保育」
講師 大阪総合保育大学
特任教授 神長美津子氏

これまでの生活経験等）や、子どもたちの今（実現したいと思っていること）に寄り添うことであり、「幼児教育」は、子どもたちの未来を考えていくものである。



幼児教育と小学校教育の接続においては、「遊びを通して学びの芽生え」から「自覚的な学び」へと移り変わる時期であることから、幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿を理解しながら、「幼保小の架け橋期のカリキュラム」や、「興味や関心を生かした学び」をつなげて一貫した教育環境をつなげていく必要性が解説された。

「環境の構成」と「援助」についてを考察することや、保育者同士で、子どもへの関わり方を話し合う時間の大切さも学んだ。

資質向上研修②「働き方改革」

期日 令和八年七月十四日（火）

会場 ベルヴィ宇都宮（シン）

参加 六十名

内容 「保育の質向上につながる安心の職場づくり」
講師 社会保険労務士法人ワーク・イノベーション

代表 菊地加奈子氏

今回の研修では、「安心して働ける職場が保育の質を上げる」をテーマに、保育現場を取り巻く最新の労務動向や、職員が安心して働き続けられる職場づくりについて学んだ。



研修では、子ども性暴力防止法やラストマイルラスメント、同一労働同一賃金など、近年の法改正や社会的課題について理解を深めた。これらは法令を遵守するだけでなく、子どもの安全確保や職員の権利を守り、保護者との信頼関係を築くためにも重要であることを再認識した。

また、離職を防ぎ、働きやすい職場を実現するためには、心理的安全性の高い組織づくりが欠かせないことを学んだ。職員同士が安心して意見を伝え合い、困ったときに相談できる環境や、ハラスメントを未然に防ぐ体制を整えることが、風通しの良い職場づくりにつながり、職員の意欲や



協力体制を高めることが確認された。さらに、労働時間や休憩、休日など労務管理の基本を再確認するとともに、他園の実践事例を通して、日々の業務改善や働きやすい職場環境づくりに向けた具体的な取組について理解を深めた。

第二回「保育テクニカル講座」

期日 令和八年七月二十八日（火）

会場 コンセーレ（大ホール）

参加 九十二名

内容 「歌を通して子どもの心とつながる」
講師 玉川大学教育学部
教授 朝日公哉先生

玉川大学教育学部の朝日公哉先生による講座では、「歌に走り、歌に終わる」という理念のもと、保育者自身が音楽を楽しむことの大切さについて学んだ。



先生は、音楽指導において重要なのはピアノの演奏技術ではなく、「音楽が好き」という気持ちをもって子どもと関わる姿勢であると強調された。

講座では、朝の会や帰りの会で日常的に取り入れられる生活の歌をはじめ、じゃんけんを取り入れた発声遊びやリズム遊び、指遊び、運動会でも活用できるゲームなど、保育現場ですぐに実践できる内容が数多く紹介された。また、子どもが親しみやすい歌を選ぶ際には、「短く覚えやすいこと」が重要であり、長すぎる曲は継続的な活動や生活のルーティーンとして定着しにくいことについて学んだ。



さらに、少ないコードで多くの曲を演奏できるウクレレは、保育者にとって取り入れやすい楽器として紹介された。「好きこそ物の上手なれ」「下手の横好き」という言葉を大切に、保育者自身が音楽を楽しみ、挑戦する姿勢こそが子どもたちの興味や意欲を引き出し、音楽の楽しさを伝える原動力になると話された。

青年部全体委員会・研修会

期日 令和八年五月二十九日（金）

会場 コンセーレ（小ホール）

参加 二十一名

内容 「絵本と音楽の理解を深めることが、保育環境に与える影響」
講師 国立音楽大学音楽文化教育学科教授
国立音楽大学附属幼稚園
園長 林 浩子氏

青年部委員が一同に会し、研修に先立ち全体委員会を行った。

研修では、国立音楽大学附属幼稚園 園長の林浩子氏にお越しいただき、絵本と音楽と絡めた講話をいただいた。



国立音大附属幼稚園は「窓ぎわのトットちゃん」で知られる小林宗作氏が初代園長として導入したりトミックが今なお受け継がれているという。今回のテーマである絵本と音楽に繋がる話であり、ツバメの季節ということもあるので、年中児によるツバメの活動を引き合いに話が始まった。園内で見つけたツバメを発端に、絵本を使って引き込んでいき、ツバメの成長の過程や動きをリトミックで表現すると





いう音大附属の幼稚園ならではの保育であった。

その後は、幼稚園で行われているリトミックの風景を動画で見せていただいたが、「氷」をテーマに始まったリトミックも、氷の表現からペンギンなど連想がどんどん進み、それに合わせて先生がピアノでその動きに合うよう即興で弾き、またその曲に合わせて子どもたちが思い思いに動く、となかなか真似ができない保育が行われていた。

林先生は「保育はジャズ」と仰っていたが、リトミックに限らずその場の展開に合わせる必要がある保育は、まさにジャズと思わせる附属幼稚園の保育であった。

新採研（宿泊研修）代替研修

期日 令和八年八月二十一日（金）

会場 栃木県総合文化センター（各会議室）

参加 百十六名

新採研の青年部担当として、県総合文化センターにて実践研修が行われた。当日は、各々興味がある、もしくは担当年齢に合わせた活動を、午前と午後に二時間ずつ受講する。

ア・（〇・一・二歳児の保育）
イ・「みんながワクワク、笑顔あふれる
うた遊び」
ウ・「子どもと考える遊び」



工・「造形遊び」キーワードは「やってみよう！」

の四つの活動を、青年部員が実行委員として、新採の先生たちにとって学びとなるようにと、四月から内容を考え、企画、運営した。

盆が明け再び猛暑になった中、各園の新採の先生たちが集まって行うこの研修。始まりはやや静かな感じがしたもの、青年部員が自らの仕事の合間を縫って活動の内容や流れを考え、楽しく学んでいってもらえるよう工夫されており、ア・ウ・エの活動はアイスブレイクや簡単なゲームなどで少し関係性を温めてから研修に入っていた。最初の説明などが終わると、実際に隣同士やグループワークで話し合いを行い、持参したおもちゃについての紹介、オリジナルのゲーム、隣同士で一つのものを作り上げるなど、各活動に沿って一緒に考え、活発に話し合いができていた。

イの活動は座って話を聞く、という時間ではなく、歌って、踊って、紹介を聞いてと、実行委員がかわるがわる動き、新採の先生たち一つでも多く持ち帰ってもらえるよう、すぐに園でも使えるよう、一生懸命披露していた。

スクールバス安全運転研修会

期日 令和八年八月二十日（木）

会場 コンサートホール（大ホール）

参加 百十六名

株式会社ジャパン・リリーフ
安全送迎サポート課
課長 吉田 努氏

研修は開始前に、自転車に関する道路交通法問題十五問へ解答時間十分）に取り組みと

ころからスタート。冒頭十分は、毎年更新される法改正点を解説しながら進行し、一方

通行の研修にならない工夫が凝らされた。バスの先生方もメモを取りながら聞き入っていた。



中盤以降は、実際の幼稚園バス運転手の送迎映像をスクリーンに映し、危険予知トレーニングとして三つのケーススタディを紹介。①制限速度 ②車両の高さ、③漫然運転をテーマに、写真や動画も交えた内容。最後は安全三か条「ヒ・ビ・ヤリハットは事故の一手手前」「コ・交差点には自転車・バイクが潜む」「キ・狭路はいつでも止まれる速度」を確認して締めくくった。参加者からは「年々内容が濃くなっている」との声が上がった。事故の九十五％は安全意識で防げるとされ、日々の実践の大切さが強調された。



青年部県外視察研修会

期日 令和八年八月三十日（火）

会場 福島県郡山市 あさひがおか保育園

参加 十三名

福島県郡山市のあさひがおか保育園に視察に伺った。園は閑静な

住宅街にあるものの、広い通りに面し、小学校とも対面するなど立地がよく、コンパクトながらも約百名の子どものもとがおり、元気に出迎えてくれた。

初めに園長である高橋博氏の話をつたう。十数年前に元園長であった母親から引き継いだ際に、当時では珍しい保育園で子ども主体の保育を始めたとのこと。しかしながら、保護者、地域、自治体からも受け入れられずに苦慮していたが、保育を続けたことにより今では自治



体にも受け入れられる園となったそう。園の理念は「子どものしあわせを考える」とあり、園では子どもにとっての幸せを最優先の判断事項として活動を考えている。

登園後、子どもたちはそれぞれ主体的に活動を行うが、三歳児以上は十時には一度集まり、朝の会などを行う。〇・一・二歳児は、育児担当制を採用しており、それぞれの活動を担当し見守りながら保育にあたっている。その後は再び子どもたちは思い思いに活動を行うが、当日はサッカーが展開された。築山やタワータイプの木製遊具がある園庭ではあるが、ゴールを置き、先生も混ざりながら三歳児にサッカーを行っていた。一つのボールを追い、それぞれが常に動きながらのサッカーは集中力を養う、という点においては有用だろう。その他、高橋園長は積み木の研究をよくされていることで、カブツによる大きな造形や、様々な種類の積み木も用意されており、子どもの主体性がよく育まれるような保育室であった。



幼児教育センターだより



新規採用幼稚園教諭等研修 (第二日)

五月二十六日及び六月二十六日に、宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園で実施しました。



三歳児・四歳児・五歳児の保育観察を行い、保育の名場面を捉え、共有しました。その後、環境の構成や保育者の援助について、保育観察を通して気付いたことや考えたこと、大切にしたいことを協議しました。

新採者からは、「こどもたちの思い等を受け止め、自ら考えて挑戦できるような環境を整えたり援助したりしていくことが大切だと感じた。」「こどもたちが自由にのびのびとできるような環境や言葉かけを工夫していきたい。」といった振り返りが寄せられました。

(第三日)

七月二十四日に、総合教育センターで実施しました。午前中は、人権教育に関する講話、幼児理解・園児の理解から始まる保育についての講話・演習を行いました。

午後は、グループに分かれ、十二名の指導助言者の下で、幼児・



園児を理解するために大切にしたいことについて考えを深める演習を行いました。

指導助言者による豊富な経験に基づく具体的な助言を通して、新採者は幼児理解の重要性や保育者としての関わり方について理解を深めることができました。



新採者からは、「こどもを他の子と比べず、その子らしさや成長を認め、適切な援助につなげることが保育者の役割だと感じた。」「こどもの姿を丁寧に観察し、思いに寄り添いながら、一人一人に合った保育を実践していきたい。」といった振り返りが寄せられました。

本研修で得た学びを今後の保育に生かし、保育者として更なる成長を遂げていくことを期待しています。

教育課程研究集会 (幼児教育) 第一日

六月十六日に実施しました。今年度は、受講者がそれぞれの園の実態や課題を踏まえながら、三つの協議主題の中から関心のあるテーマを選択する形式としました。

午前中は、千葉大学大学院教育学部教授 砂上史子先生より、最新のワーキンググループの議論等を踏まえながら、三つの協議主題や協議の視点について、講話をいただきました。

午後は、協議主題ごとにグループに分かれ、それぞれが自園で取り組

む研究テーマについてアイデアを共有しました。協議の視点を基に情報交換や意見交流を行いながら、自園の実態や課題と関連付けて研究の方向性を検討する姿が見られました。



受講者からは、「保育を振り返るよい機会となった。」「協議を通して、自園の強みや課題への理解を深めるとともに、今後取り組むべき方向性を見出すことができた。」などの感想がありました。

第二日には、それぞれが取り組んだ研究テーマの具体的な実践について発表し合い、考察を深めていく予定です。

中堅幼稚園教諭等資質向上研修第二日 保育所保育士研修 (中堅)

七月一日に、保育所保育士研修(中堅)と合同で実施しました。

午前中は、園における組織マネジメントについて、講話・演習を行いました。

午後は、「子ども主体の保育を考えよう」の演習後、大阪総合保育大学児童保育学部特任教授 宮里暁美先生より「子ども主体の保育」質の高い保育の実現のために」と題して講話をいただきました。

受講者からは、「保育者同士の対話だけでなく、こどもとの対話を大切に、こどもの



思いを受け止めながら保育をしたいきたい。」「グループワークで色々な意見を聞くことで主体性について多くの学びを得ることができた。」などの振り返りがありました。

施設類型の別なく協議等を行うことで、様々な園の取組を知るとともに、中堅としての立場について改めて考え、園のマネジメントに取り組む意欲を高めていました。



★これからの研修★ 合同研修 (幼小)

十月二十九日(木)

新規採用幼稚園教諭等研修

十二月二十二日(火) * 第九日

幼稚園等教職五年目研修

九月八日(火) * 第二日(Aグループ)

十月十九日(月) * 第二日(Cグループ)

十一月十二日(木) * 第二日(Bグループ)

十一月二十五日(水) * 第三日

中堅幼稚園教諭等資質向上研修

九月二十五日(金) * 第五日

一月六日(水) * 第六日

幼児期の特別支援教育研修

一月十二日(火) * 第二日

幼稚園・こども園・保育所主任等研修

十二月二日(月) * 第三日(Aグループ)

十二月九日(月) * 第三日(Bグループ)

一月二十六日(火) * 第四日

詳細は「幼児教育センター研修案内」で御確認ください。

31111111





こども政策課だより

各種提出書類について

幼稚園運営費補助金交付申請書

●提出期限 十月中旬（予定）

※令和八年度幼稚園運営費補助金（一般補助分）については、九月中旬に事業計画書の提出をお願いする予定です。

その後、十月上旬を目途に内定通知を送付いたします。

交付申請書の提出に当たっては、内定通知の記載に基づき提出願います。

幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（特別補助分）関係書類

（一）特別支援教育

●提出書類

ア 対象園児就園状況調査書

イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査書

ウ 対象園児である旨の判定調査書

●提出期限 十一月初旬（予定）

※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書又は、児童相談所等の判定書のいずれが必要となります。

専門医の診断書等の記載内容については、参考様式を作成し、その旨通知しますのでご確認ください。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、ご留意願います。

（二）子育てランド事業

●提出書類

ア 子育てランド事業実施計画書

イ 各事業における保護者等への案内通知（写）

●提出期限 十一月上旬（予定）

（三）わんぱく保育推進事業

●提出書類

ア わんぱく保育推進事業実施計画書

イ 預かり保育実施記録

ウ 保護者等への案内通知（写）

●提出期限 十一月上旬（予定）

※わんぱく保育推進事業については一号認定子どもが対象となります。新制度へ移行した幼稚園又は幼保連携型認定こども園において一号認定子どもを預かっていない時間は算定から除くこととなりますのでご留意願います。

各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上期限までに提出願います。

令和八年十月～十二月までの事業予定

10月16日	資質向上研修（県外視察）
10月22日	資質向上研修（ECCQ公開保育） （認定こども園 釜井台幼稚園）
10月26日	全日私幼設置者・園長研修 全国大会（佐賀県）
10月27日	※架け橋期コーディネーター育成研修
10月28日	幼稚園教育振興の集い（佐野市）
10月29日	※合同研修（幼・小）
11月12日	設置者・園長研修会
11月13日	資質向上研修（ECCQ公開保育） （認定こども園 東光寺幼稚園）
11月19日 ～20日	全日私幼関東地区代表者協議会 （群馬県）
11月25日	※幼稚園等教職5年目研修
11月26日	保育セオリー講座
11月26日	栃木県放送・視聴覚教育研究大会 （下都賀地区）
12月8日	0・1・2歳児研修
12月15日	資質向上研修（幼小連携）
12月22日	⑨新採研（集合研修） ※は幼児教育センター事業

計報

●栃木市幼保連携型認定こども園
バンビ幼稚園

理事長 小笠原義仁 先生

令和八年七月十七日 逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

二年前に園庭を改修した。それまでのジャングルジムや滑り台などの遊具を取り払い、築山を造って植栽を施した。狭いながらも土に親しめる場になった。

園庭の刷新は、認定こども園へ移行した当初からの課題だった。三歳から五歳までの子どもが遊べる従来の環境を、一・二歳児も充実した遊びを展開できる環境に変えたいという強い思いがあった。

職員研修を重ねてコンセプトは定まった。しかし、財政面の厳しさや園庭作りの経験不足から、具体的な進め方に行き詰まってしまった。

そんな中、改修へ向けて背中を押してくださったのは保護者の皆さんだった。役員会で構想を話すと保護者会で支援を呼びかけてくださり、専門家との出会いも得て、新しい園庭を完成させることができた。

今、子どもたちは毎日どろんこになって外遊びを楽しんでいる。多くの方々の支援に感謝するとともに、これから子どもたちの笑顔が絶えない園づくりに励んでいきたいとの思いを新たにしました。

（認定こども園清愛幼稚園 藤秀彦）